

令和2年度 施策評価シート

基本目標		安心して暮らせる「すみだ」をつくる
政策	480	未来に引き継ぐ、環境にやさしいまちをつくる
施策	483	廃棄物を減量し、循環型社会を実現する
施策の目標	ごみの減量やリサイクルについて、区民・事業者の意識と理解が深まり、ごみの発生抑制を基本とした生活習慣が定着しています。	

1 基本計画における成果指標の状況

指標名	「区民1人1日あたりのごみ排出量」の削減 R2は速報値									
	基準年(H28)	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標	565 g	550 g	537 g	525 g	520 g 以下					515 g 以下
実績	564 g	561 g	548 g	544g						

指標名	「資源化率」の向上 R1は速報値									
	基準年(H28)	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標	20.5%	21.3%	22.0%	22.6%	23% 以上					25% 以上
実績	19.6%	18.9%	19.0%	18.9%						

2 目標と現状(実績)についての分析及び総事業費推移

指標の推移・施策の課題や問題点について記述	総事業費推移(千円)	
墨田区一般廃棄物処理基本計画(平成23年度～令和2年度)における最終目標は、区民1人1日あたりのごみ排出量を520g以下、年間総排出量を91,000t以下、資源化率を23%以上としている。区内人口が増加しているものの、ごみ量の削減は順調に推移しているが、資源化率は停滞状況にある。このため、最終目標値の達成には、これまで以上に目標値を意識した取組を進めていく必要がある。 ごみの減量・資源化率の向上には、行政主体の施策事業の取組を進めるだけでなく、区民・事業者との協働が不可欠であることから、各種事業の更なる強化及び推進が不可欠である。	H29	1,321,746
	H30	1,346,902
	R1	1,407,779

3 施策の評価及び判断理由

評価	理由
C	ごみの減量及び資源化率の向上に向けて、粗大ごみとしての排出ではなく資源物とするため、自転車リユース事業の本格実施や、羽毛ふとんの一部をリサイクルする事業の実証実験の実施等を行った。しかし、リサイクル可能な古紙等の大幅な減少が顕著となり、ごみ総量に対する資源物の割合は低下することとなった。「区民1人1日あたりのごみ排出量」の数値は微減にとどまり、一方、「資源化率」については、目標数値から遠ざかることとなり、中間目標の達成は厳しい状況となっている。

4 今後の施策の運営方針

評価結果	施策の戦略的方向性
	(1) 優先的に資源投入を図る。
	(2) 現状維持とする。
	(3) 現状維持だが、より効率的な運営を図る。
	(4) 資源投入の縮小を図る。
【上記の判断理由】	
コロナ禍においても、清掃業務は区民が生活する上で、必要不可欠な仕事を担うエッセンシャルワークとして継続的に事業を実施している。区民生活を維持するためにも、区民、事業者、行政の協働で事業を推進していく。	
【今後の具体的な方針】	
3Rの中でも、特に2R(リデュース・リユース)に力を入れ、ごみだけでなく資源物を含めた不要物の総量を減らす。そのために、使用資源の削減(マイバック、マイボトルの利用)、消費の工夫(使い切る、長く使う)など、啓発に力を入れる。	

5 この施策に係る事務事業（重要度・貢献度順）

番号	事務事業名	歳出 決算額 (千円)	人コスト (千円)	歳出 総額 (千円)	目的に対する指標	
					年度目標値	直近の評価内容
					年度実績値	評価結果
					年度実績値	評価対象年度
1	収集事業費(車両雇上費)	647,837	615,150	1,262,987		改善・見直し
						平成28年度
2	資源回収事業費	503,889	24,466	528,355	22.6	改善・見直し
					18.9	平成28年度
3	粗大ごみ収集事業費	194,925	54,175	249,100	440	改善・見直し
					480	平成28年度
4	リサイクルの普及・啓発経費	11,163	78,641	89,804	51,174	改善・見直し
					54,371	平成28年度
5	集団回収支援経費	38,516	4,369	42,885	6,343	改善・見直し
					4,912	平成28年度
6	拠点回収実施経費	4,923	4,369	9,292	39.2	改善・見直し
					41.2	平成28年度
7	事業系リサイクル推進事業費	125	62,039	62,164	22.6	改善・見直し
					19.0(H30)	平成28年度
8	すみだリサイクル清掃地域推進委員制度運営費	207	1,748	1,955	160	改善・見直し
					109	平成28年度
9	エコストア制度推進費	22	1,748	1,770	51,174	改善・見直し
					54,371	平成28年度
10	資源持ち去り及び不法投棄防止対策経費	3,526	62,913	66,439	1,800	改善・見直し
					1,786	平成28年度
11	クリーンキャンペーン実施経費	1,466	2,621	4,087	13,000	改善・見直し
					9,300	平成28年度
12	廃棄物減量等推進審議会運営費	236	5,243	5,479	2	改善・見直し
					0	平成28年度
13	許可・指導事務費	19	4,369	4,388		改善・見直し
						平成28年度
14	自動販売機届出受付事務費	3	1,748	1,751		改善・見直し
						平成28年度
15	旧リサイクル活動センター管理運営費	922	874	1,796		廃止を検討
						平成29年度

事業の 成 果	手段に 対する指標 (活動指標)	指標					単 位	
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
				目標				
				実績				
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標						
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	現業職員の退職者不補充の考えに基づき、車付雇上を導入することとしているが、全体業務の見直しを伴うため、「退職者数 = 雇上移行」ではないため、事務の性質上、数値指標を設定しない。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指標					単 位	
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1	
			目標					
			実績					
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
	目標							
	実績							
指標の選定理由及び目標値の理由								
数値設定なし = 上記「手段に対する指標」と同様の考えによる。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	<p>【評価説明】 直営の人材・機材を補完する必要性に応じて、雇上(車付雇上を含む)を導入していく余地がある。</p> <p>【今後の方向性等】 今後とも、一般廃棄物の処理が快適な住民生活を支える基盤となる事業であることに変わりない。その中で、直営の人材・機材を補完する必要性に応じて、雇上(車付雇上を含む)を導入していく。</p>

課題・問題点
「車付雇上」は、技能系職員の退職者数等に応じて、雇上業務に移行することから、その傾向は一定化していない。

施策	483	廃棄物を減量し、循環型社会を実現する	部内優先順位			
事業名	資源回収事業費				2	
目的	ごみとして廃棄されていたものを資源として回収し、リサイクルルートに乗せることによって、廃棄物を減量し、循環型社会を実現する。				主管課・係（担当）	
					すみだ清掃事務所・作業係	
					3613 2228	
対象者	区内の資源物排出を行う区民、区収で資源物排出を行う事業所					
根拠法令 関連計画	廃棄物の処理及び清掃に関する法律・容器包装リサイクル法・循環型社会形成推進基本法					
実施基準	法令基準	実施方法	一部委託	人員体制・委託先	常勤5人、委託先：R団連すみだ外	
事業内容	平成12年4月、都から区へ清掃事業が移管され、区が集積所による古紙収集を実施。平成18年10月、集積所における資源回収品目を拡充し、びん・缶、ペットボトルの回収を実施。平成19年7月、モデル地域での食品トレー回収実施。平成20年10月より区内全域で実施。					
経過	開始年度		終了予定			
	令和元年度に実施した組成調査の結果では、ごみとして排出されている「資源物」が約20%混入されている。そのため、雑がみ、古着等の資源となる品目について、資源回収への排出を啓発していく必要がある。 資源物を区民側が管理する必要もなく、定期的に排出できる点において区民生活の利便に大きく資するものであり、更なる資源化率の向上にも結びつくものでもあるため、今後も改善・効率化を図り、行政サービス自体は現状レベルで継続する必要がある。					
議会質問 の状況	令和2年度予特及び令和元年度決特において、集団回収システムにおけるリサイクルルート維持対策費の確保の必要性について質問あり。					
その他 特記事項	(他区の状況・年間スケジュール・関連部署等) 通年で実施している。					

予算・決算額推移（千円）		27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度
予算現額（事業費）		481,800	488,149	503,836	507,192	510,035	516,171
決算額（令和2年度は見込み）		477,463	482,958	495,309	502,895	503,889	516,171
財源	国						
	都						
	その他						
一般財源		477,463	482,958	495,309	502,895	503,889	516,171
執行率（％）		99.1%	98.9%	98.3%	99.2%	98.8%	100.0%

予算・決算の内訳（単位：千円）								
平成30年度（決算）			令和元年度（決算）			令和2年度（予算）		
節	概要	金額	節	概要	金額	節	概要	金額
賃金	受付・展示品補修業務	1,792	賃金	受付・展示品補修業務	1,184	賃金	受付・展示品補修業務	0
需用費	消耗品等	7,059	需用費	消耗品等	5,575	需用費	消耗品等	9,206
役務費	資源回収等	371,015	役務費	資源回収等	373,025	役務費	資源回収等	379,997
委託料	資源化業務等	122,813	委託料	資源化業務等	117,110	委託料	資源化業務等	126,280
使用料及び賃借料	資源物回収用車両リース	210	使用料及び賃借料	資源物回収用車両リース	212	使用料及び賃借料	資源物回収用車両リース	214

事業の 成 果	手 段 に 対 する 指 標 (活 動 指 標)	指 標	資源物行政回収量				単 位	トン
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		7625	R2	目標	7425	7457	7507	7556
				実績	7312	7324	7291	7681
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	目標	7625						
	実績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	目標値は、墨田区一般廃棄物処理基本計画中間見直しによる資源物行政回収量・見直し予測値を設定。実績は、集団回収以外の全資源物を対象とした回収量を設定。							
	目 的 に 対 する 指 標 (成 果 指 標)	指 標	資源化率				単 位	%
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1	
23.3		R2	目標	20.5	21.3	22	22.6	
			実績	19.6	18.9	19.0	18.9	
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目標	23.3							
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
目標値は、墨田区一般廃棄物処理基本計画中間見直しによる資源化率・見直し予測値を設定。実績は、総排出量(持込ごみを除く)/全資源回収量で算定。 R1年度は、速報値で算出。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	<p>【評価説明】 回収量の増加により、委託車両台数等を見直す必要がある。</p> <p>【今後の方向性等】 ごみとして出されている資源物を資源回収へ排出いただけるよう普及啓発を強化する。 区民団体等が民間ベースで展開する集団回収の利用状況も踏まえつつ、より合理的かつ効果的な資源回収システムの構築を検討し続ける必要がある。また、回収品目についても、品目ごとの回収状況や、社会経済状況で求められる新たな品目の導入も踏まえつつ事業の継続を行う必要がある。</p>

課題・問題点
<p>資源化率について、基準年より低下している。原因として古紙、特に新聞紙の減少が大きな要因である。また、本区は、他区と異なり容リプラ、不燃物、粗大ごみ等の資源化の施策を講じておらず、この傾向は続くおそれがある。0円予算事業で歯ブラシやペットボトルキャップ等の資源化や自転車羽毛布団のリユースリサイクル事業に努めているが、資源化率の数値向上にはつながっていない。</p> <p>新型コロナウイルスの影響や古紙市況の悪化により、集団回収が維持できずに行政回収量が増える恐れがあり、その場合資源回収にかかるコストが増大する。</p>

事業の 成 果	手 段 に 対 する 指 標 (活動指標)	指 標	収集申告件数				単 位	件
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		104991	R2	目標		-	97070	100953
				実績	85345	93337	97100	103770
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	目標	104991						
	実績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	「墨田区一般廃棄物処理基本計画中間見直し(平成29年6月)」における、粗大ごみ排出量予測においても増加予測にあることから、申告件数を活動指標とした。							
	目 的 に 対 する 指 標 (成果指標)	指 標	運び出しサービス収集件数				単 位	件
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1	
450		R2	目標		420	430	440	
			実績	309	414	515	480	
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目標	450							
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
高齢社会の進展に伴い、後期高齢者の割合が増加することから、高齢者のみでは排出困難な粗大ごみの運び出しサービスのニーズが高まることも予測される。このため、直営実施の運び出し事業を成果の指標として設定した。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	<p>【評価説明】 法律に則る一般廃棄物処理。</p> <p>【今後の方向性等】 平成29年度から、直営職員による運び出しサービス事業を再開したところであるが、今後も増加する人口及び進展する高齢社会に合わせ、引き続き、より一層区民ニーズに対応したサービスを提供するとともに、リサイクルを進めていく。</p>

課題・問題点
<p>粗大ごみについては、区の人口増加に伴い、受付件数が年々増加している。また、新型コロナウイルスによる外出自粛要因も加わり、令和2年4月以降さらに増加しており、受付してから、収集までの時間短縮が喫緊の課題である。</p>

事業の 成 果	手 段 に 対 する 指 標 (活 動 指 標)	指 標	大規模イベントへの出展に係るブース等への来場者数				単 位	人
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		4100	R7	目 標	2500	2600	2700	3500
				実 績	2644	2845	3508	3932
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目 標	3600	3700	3800	3900	4000	4100
	実 績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	直接コミュニケーションをとりながら、必要な情報を届けることが可能であるため。 最終目標値3,400をH30に達成したことから、4,100に見直した。							
	目 的 に 対 する 指 標 (成 果 指 標)	指 標	区収集ごみ量				単 位	t
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1	
50,529		R2	目 標	53,856	52,791	51,855	51,174	
			実 績	54,241	54,557	54,009	54,371	
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目 標		50,529						
実 績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
事業成果の目的は、廃棄物の減量であることから、その割合を示す数値として設定したものである。なお、目標数値は、「墨田区一般廃棄物処理基本計画中間見直し(平成29年6月)」に基づく数値である。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	<p>【評価説明】 ごみ・資源物の総量減少を推進するために普及啓発は必要不可欠である。ただし、普及啓発のあり方については、地域や世代、対象者ごとに必要な情報を届けることが求められるため、メニューやツールのバリエーションについて、検討の余地あり。</p> <p>【今後の方向性等】 ごみ減量推進に効果が高い「生ごみの水切り励行」や「食品ロスの削減」等を重点的にPRしていく。今後、資源物・ごみ分別案内については、保存版冊子及びチャットボットにより一層の普及啓発を行う。 なお、「スカイツリー周辺清掃事業」は、オリンピック・パラリンピックを控え、快適なまちなみ景観づくりに寄与していく。</p>

課題・問題点
チャットボットについて、検索精度や画面の視認性を向上させ、より使いやすいものにする必要がある。

施 策	483	廃棄物を減量し、循環型社会を実現する	部内優先順位			
事 業 名	集団回収支援経費				5	
目 的	町会・自治会等が市場価値をもつ資源を自主的に回収し、資源回収業者に引き渡す活動を支援することで、ごみの減量および資源の有効活用の促進を図る				主管課・係（担当）	
					すみだ清掃事務所・作業係 3613 2228	
対 象 者	集団回収実施団体、集団回収業者					
根拠法令 関連計画	墨田区廃棄物の減量及び処理に関する条例、墨田区資源回収システム推進要綱、墨田区分別収集計画					
実施基準	区独自基準	実施方法	直営	人員体制・委託先	常勤2	
事業内容	<p>家庭から出る古紙、びん、缶などを資源物としていかすため、区に登録した団体（10世帯以上からなる団体）が自主的に収集し、資源回収業者に引き渡す。団体には1kg当たり6円の報奨金の支払及び作業に必要な用具を提供する。</p> <p>また、古紙の価格が一定基準以下に下がった場合、リサイクルルートの維持を目的として、集団回収業者に対してリサイクルルート維持対策費を支払う。</p>					
経 過	開始年度	平成4年度	終了予定			
	<p>段ボールの回収量は増加傾向にあるが、新聞紙及び雑誌の回収量が減少している影響により、集団回収量は年々減少している。その結果、「資源回収事業」全体でも伸び悩んでいる状況である。</p>					
議会質問 の 状 況	令和2年度予特及び令和元年度決特において、集団回収システムにおけるリサイクルルート維持対策費の確保の必要性について質問あり。					
そ の 他 特記事項	(他区の状況・年間スケジュール・関連部署等) 報償費の支給・・・9月、3月 集団回収団体への支援物品の配布・・・12月 ルート維持対策費の支給・・・年6回					

予算・決算額推移（千円）		27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度
予算現額（事業費）		42,051	45,618	43,638	37,327	41,521	48,239
決算額（令和2年度は見込み）		40,793	39,351	37,154	35,809	38,516	48,239
財 源	国						
	都			1,181	1,350	851	
	その他						
一般財源		40,793	39,351	35,973	34,459	37,665	48,239
執行率（％）		97.0%	86.3%	85.1%	95.9%	92.8%	100.0%

予算・決算の内訳（単位：千円）								
平成30年度（決算）			令和元年度（決算）			令和2年度（予算）		
節	概要	金額	節	概要	金額	節	概要	金額
報償費	集団回収支援経費	31,829	報償費	集団回収支援経費	30,267	報償費	集団回収支援経費	36,000
需用費	支援物品経費	2,883	需用費	支援物品経費	1,859	需用費	支援物品経費	5,275
委託料	集団回収システム保守	259	委託料	集団回収システム保守	262	委託料	集団回収システム保守	264
使用料及び賃借料	集団回収システムの再借上	205	使用料及び賃借料	集団回収システムの再借上	207	使用料及び賃借料	集団回収システムの再借上	209
負担金補助及び交付金	リサイクルルート維持対策費	444	負担金補助及び交付金	リサイクルルート維持対策費	5,687	負担金補助及び交付金	リサイクルルート維持対策費	6,230

事業の 成 果	手 段 に 対する指標 (活動指標)	指 標	集団回収実施団体数				単 位	団 体
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		420	R2	目 標		390	400	410
				実 績	386	400	407	411
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	目 標	420						
	実 績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	<p>集団回収における資源回収量増加を図るためには、登録団体数の増加が必要である。区民へ制度の周知徹底を図り集団回収実施団体数を増加させる。</p>							
	目 的 に 対する指標 (成果指標)	指 標	資源回収量				単 位	t
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1	
6401		R2	目 標		6259	6302	6343	
			実 績	5899	5325	5274	4912	
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目 標	6401							
実 績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
<p>集団回収実施団体数の増加を図り、将来的に資源の回収量の増加を図る。目標値は、「墨田区一般廃棄物処理基本計画中間見直しの集団回収見直し予測値による。</p>								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	<p>【評価説明】 新聞や雑誌等の電子化に伴い回収量は減少しているが、資源物回収システムの中で最も中心的な回収方法に位置付けている集団回収を確実に継続してもらうために行政としては、回収団体に対し側面的支援(回収量に応じた報奨金支給、回収用具等の支給)を実施していく。なお、資源回収に要する委託費は発生していない。</p>

課題・問題点
<p>経済性に優れた回収方法であり、かつ地域コミュニティの育成の見地からも、有効な事業であるが、町会・自治会役員の高齢化による負担増を考慮する必要がある。</p>

事業の 成 果	手 段 に 対する指標 (活動指標)	指 標	拠点数				単 位	箇所
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		240	R7	目 標	218	220	224	226
				実 績	218	218	215	212
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目 標	228	230	232	234	237	240
	実 績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	回収拠点数を増やして、区民が排出しやすい環境を作る。							
	目 的 に 対する指標 (成果指標)	指 標	回収量(電池、廃食油、小型家電)				単 位	トン
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1	
42		R7	目 標	38	38.4	38.8	39.2	
			実 績	38	39.9	39.3	41.2	
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目 標		39.6	40	40.4	40.8	41.4	42	
実 績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
回収量が増加すれば、リサイクル率が向上し循環型社会の構築に資するとともに、ごみの減量化にもつながる。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	【評価説明】 拠点回収は、集団回収、集積所回収(特定資源物回収)のメリット・デメリットを相互補完する機能を有することから、引き続き実施していく。

課題・問題点
<p>これまで協力してくれていた、個店が廃業したため、回収拠点が減少しているのが現状であるが、区民がより利用しやすい拠点設置を働きかける等、改善の余地がある。</p>

事業の 成 果	手 段 に 対 する 指 標 (活動指標)	指 標	立入調査件数				単 位	件
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		135	R7	目 標	135	135	135	135
				実 績	97	96	94	78
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目 標	135	135	135	135	135	135
	実 績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	立入調査件数を活動指標とすることにより、大幅な事業系廃棄物の削減へと繋げていける。目標値については、立入調査実施時期を3～4年としているため、現在の対象建築物数を案分した数字としている。							
	目 的 に 対 する 指 標 (成果指標)	指 標	資源化率(家庭ごみ分を含む)				単 位	%
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1	
23.3		R2	目 標	20.5	21.3	22	22.6	
			実 績	19.6	18.9	19.0	18.9	
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目 標		23.3						
実 績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
本事業の趣旨が、事業系廃棄物の削減を目標としているものであるため。目標値は、墨田区一般廃棄物処理基本計画中間見直しによる資源化率・見直し予測値を設定。実績は、総排出量(持込ごみを除く)/全資源回収量で算定。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	<p>【評価説明】 立入調査の実施方法や大規模な事業者向け講習会の実施などを検討していくことで、事業系廃棄物の削減効果の向上が見込める。</p> <p>【今後の方向性等】 引き続き、事業者に対する排出ルールの徹底を図り、より一層の普及啓発を行っていく。</p>

課題・問題点
<p>東京都のゼロエミッション東京戦略で、2030年目標として、家庭及び大規模オフィスビルから排出される廃プラスチックの焼却量を2017年度比40%削減を掲げており、目標達成のためにも、事業者指導に力を入れる必要がある。</p>

事業の 成 果	手 段 に 対する指標 (活動指標)	指 標	委嘱者数				単 位	人
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		160	R7	目 標	160	160	160	160
				実 績	147	122	123	120
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目 標	160	160	160	160	160	160
	実 績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	区の実施するリサイクル・清掃事業を地域住民の協力のもとに推進していくためには、より多くの地域のリサイクル清掃のリーダーの育成が必須である。また、要綱では、推進委員の委嘱期間を経過した者に対し、離任後の活動協力を要請していることから、委嘱者数が増えることが望ましいため。							
	目 的 に 対する指標 (成果指標)	指 標	年末不法投棄防止パトロール参加団体数				単 位	団体
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1	
160		R7	目 標	160	160	160	160	
			実 績	37	77	92	109	
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目 標		160	160	160	160	160	160	
実 績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
区が依頼する年末不法投棄防止パトロールに積極的に参加があることによって、不法投棄されない地域づくりの醸成が望まれるため。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	<p>【評価説明】 本事業の推進によってごみの減量や不法投棄の減少が実現できれば、清掃事業全体の経費削減や効率化が期待できる。</p> <p>【今後の方向性等】 地域のリーダーとして、実践活動や区民のライフスタイルに取り込まれるよう、より一層推進していく。</p>

課題・問題点
町会・自治会員の高齢化に伴い、若い世代・新規の委員選出が難しい現状にある。

事業の 成 果	手 段 に 対 する 指 標 (活動指標)	指 標	エコストア認定数				単 位	店舗
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		130	R7	目 標	100	100	110	110
				実 績	94	97	92	91
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目 標	120	120	120	130	130	130
	実 績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	エコストア認定数が、当事業の成果の目安になるため指標とした。目標値は、認定店舗の事業者が高齢などにより閉店するケースが多くなっているが、認定店の条件の見直しを行い飲食店等にも門戸を開き、認定店を増加させる。							
	目 的 に 対 する 指 標 (成果指標)	指 標	区収集ごみ量				単 位	t
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1	
50,529		R2	目 標	53,856	52,791	51,855	51,174	
			実 績	54,241	54,557	54,009	54,371	
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目 標		50,529						
実 績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
事業成果の目的は、廃棄物の減量であることから、その割合を示す数値として設定したものである。なお、目標数値は、「墨田区一般廃棄物処理基本計画中間見直し(平成29年6月)」に基づく数値である。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	<p>【評価説明】 区民1人1日当たりの区収集ごみ量は減少しているものの、総体としては、人口増のため、思うように減少していない。 また、エコストアは、拠点回収事業の回収スポットとして、リサイクル推進に大きく寄与している。</p> <p>【今後の方向性等】 乾電池等の回収拠点、レジ袋等容器削減への取り組み拠点及び食べ切り推奨を推進するための中心的な機能として引き続き展開していく。</p>

課題・問題点
エコストアの認定が、事業者のモチベーションアップや売上に貢献するような仕組み作りが課題である。

事業の 成 果	手 段 に 対する指標 (活動指標)	指 標	注意・警告等の件数				単 位	件
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		330	R7	目 標	752	760	770	390
				実 績	752	499	399	426
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目 標	380	370	360	350	340	330
	実 績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	持ち去り行為者に対して口頭注意等を行い、持ち去り行為者を減少させる。 最終目標値600をH30に達成したことから、330に見直した。							
	目 的 に 対する指標 (成果指標)	指 標	持ち去り行為発見数				単 位	回
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1	
1,500		R7	目 標	2,236	2,200	2,200	1,800	
			実 績	2,236	2,215	1,807	1,786	
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目 標		1,700	1,700	1,600	1,600	1,500	1,500	
実 績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
持ち去り行為者が減少することによって、持ち去り行為自体を減少させる。 最終目標値1,900をH30に達成したことから、1,500に見直した。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	<p>【評価説明】 パトロール方法の見直しを検討する余地がある。</p> <p>【今後の方向性等】 刑罰適用には、裁判維持のための万全な証拠保全等を要することから、司法手続き移行は必ずしも最善策ではなく、当面は注意勧告を中心としたパトロール活動を展開していく。</p>

課題・問題点
深夜の不法投棄等、現状のパトロール体制では、カバーしきれない課題がある。

事業の 成 果	手 段 に 対する指標 (活動指標)	指 標	参加団体				単 位	団 体
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		330	R7	目 標	300	310	310	310
				実 績	294	257	248	248
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目 標	320	320	320	330	330	330
	実 績	中止						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	<p>本事業の活動主体は、町会・自治会、老人クラブ、一般企業などのため、活動目標には参加団体を選定した。墨田区内の町会・自治会、老人クラブの総数に一般企業数団体を足したものを目標とする。</p>							
	目 的 に 対する指標 (成果指標)	指 標	収集ごみ量				単 位	kg
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1	
10,000		R7	目 標	15,000	14,000	13,500	13,000	
			実 績	13,360	10,250	9,410	9,300	
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目 標		12,500	12,000	11,500	11,000	10,500	10,000	
実 績	中止							
指標の選定理由及び目標値の理由								
<p>区内美化を目的とした事業のため、収集ごみ量を成果目標とし、目標値は区内のポイ捨て・不法投棄が減少していることの明確性から年々減少することが望ましい。</p>								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	<p>【評価説明】 地域活動推進課の実施する職員クリーンキャンペーンと類似するが、対象が異なるため継続して行う。</p> <p>【今後の方向性等】 本事業は、美観向上のみならず、地域力の強化にも高い効果を発揮できる事業であり、引き続き実施していく。</p>

課題・問題点
<p>令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のために、中止した。今後も事業継続を予定しているが、実施については、社会情勢を注視する。</p>

事業の 成 果	手 段 に 対する指標 (活動指標)	指 標	審議会開催回数				単 位	回
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		3	R7	目 標		3	3	3
				実 績	3	2	2	2
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目 標	3	3	3	3	3	3
	実 績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	墨田区一般廃棄物処理基本計画に基づく施策事業の進捗状況を、定期的に確認・報告し、課題等について検討する必要があるため。							
	目 的 に 対する指標 (成果指標)	指 標	一般廃棄物の減量及び資源化率の向上に資する(審議会からの)提案数				単 位	件
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1	
2		R7	目 標		0	2	2	
			実 績		0	1	0	
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目 標		2	2	2	2	2	2	
実 績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
平成28年度において、審議会委員による自主活動(検討ワーキンググループ)を充足し、事業アイデアを考案することとしたことから、その提案数を指標として設定することとした。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	<p>【評価説明】 一般廃棄物の発生抑制、リサイクルの推進等に関する事項を審議するため、区長の付属機関として設置されている。</p> <p>【今後の方向性等】 一般廃棄物処理基本計画(第4次)策定にあたり、直面する課題解決に向けて適宜会議を開催し、委員からの適切な見解を得ていく。</p>

課題・問題点
<p>新型コロナウイルス感染拡大防止のため、書面会議、オンライン会議の可能性を検討する。</p>

事業の 成 果	手 段 に 対 する 指 標 (活 動 指 標)	指 標	立入検査数				単 位	回
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		55	R7	目 標	40	45	45	45
				実 績	27	32	33	38
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目 標	50	50	50	55	55	55
	実 績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	許可業者への立入検査は、業者が法令を適正に遵守しているかの監督と、遵守されていない場合の指導を行うため、目的(違反業者を減少させる)を達成させる効果的な手段である。							
	目 的 に 対 する 指 標 (成 果 指 標)	指 標					単 位	
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1	
			目 標					
			実 績					
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目 標								
実 績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
一般廃棄物処理業者が廃棄物の処理及び清掃に関する法律等の法令を適正に遵守することにより、行政指導・処分業者数は減少するが、目標値を設定することは、事業者動向による多様な事務の性質上困難である。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	<p>【評価説明】 悪質業者による法令違反行為は、環境に対し、多大な悪影響を与えるため、本事業の効率性は高い。</p> <p>【今後の方向性等】 事業者は複数区で許可を受けることが多いことから、特別区が連携しながらも、法律に規定された制度であるため、引き続き事業は継続していく必要がある。</p>

課題・問題点
23区が共同して行っているが、処分基準の考え方に各区意見の相違がある。

事業の 成 果	手段に 対する指標 (活動指標)	指 標	届出件数(自動販売機数)				単 位	台
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		100	H37	目 標	100	100	100	100
				実 績	0	17	125	30
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目 標	100	100	100	100	100	100
	実 績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	自販機設置管理者への周知徹底の度合いを測ることができる。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指 標					単 位	
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1	
			目 標					
			実 績					
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目 標								
実 績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
目標値を設定することは、事業者動向により変動するため困難である。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	【評価説明】 自動販売機の設置に伴う回収容器は設置されるようになっている。 【今後の方向性等】 今後も適切に運用していく。

課題・問題点
自動販売機の設置については、飲料容器の散乱防止やリサイクル等による有効利用を図ることで、地域の清潔保持と環境保護へ繋げることを目的としている。回収容器の設置と自動販売機の設置等について届出を条例等で義務付けしており、今後も適切に運用していく必要がある。

施策	483	廃棄物を減量し、循環型社会を実現する	部内優先順位		
事業名	旧リサイクル活動センター管理運営費			15	
目的	家庭で不要となったものを、捨てずに必要とする方へ提供する場をつくることで、3Rに対する意識の向上を図り、循環型社会への実現へと繋げている。			主管課・係（担当）	
				すみだ清掃事務所・管理・計画調整係 5608-6922	
対象者	家庭で不要となったものを販売したい区民、廉価で衣服等を必要とする区民				
根拠法令 関連計画	すみだリサイクル活動センター運営要綱(平成30年12月1日付け廃止) すみだリサイクルの会補助金交付要綱(平成31年4月1日付け廃止)				
実施基準	区独自基準	実施方法	直営	人員体制・委託先	常勤1人
事業内容	家庭で不要になった衣類や雑貨を代理販売するとともに、不用品情報を提供するリサイクル情報交換など、リサイクルの情報拠点を担っていた施設の閉館後の維持管理。				
経過	開始年度	平成8年度	終了予定	平成30年度	
	開設以来、本施設の運営管理を行ってきた「すみだリサイクルの会」が、会員数の減少と高齢化を理由に、平成30年度末で解散することとなった。 現在の社会情勢においては、本施設の開設時に比べ、民間における中古品流通の仕組みが確立しており、開設目的について民間の機能による代替が十分可能であり、行政が施策として実施する必要性が薄れていた。 そのため、本施設の機能は、当初の目的を達成していることから、閉館することとした。				
議会質問 の状況	平成30年6月の産業都市委員会において、廃止方向で議会報告済				
その他 特記事項					

予算・決算額推移（千円）		27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度
予算現額（事業費）		6,028	4,738	3,121	2,771	989	
決算額（令和2年度は見込み）		5,757	4,442	2,474	1,114	922	
財源	国						
	都						
	その他						
一般財源		5,757	4,442	2,474	1,114	922	0
執行率（％）		95.5%	93.8%	79.3%	40.2%	93.2%	#DIV/0!

予算・決算の内訳（単位：千円）								
平成30年度（決算）			令和元年度（決算）			令和2年度（予算）		
節	概要	金額	節	概要	金額	節	概要	金額
需用費	光熱水費	319	需用費	光熱水費	254			
役務費	清掃委託	109	役務費	清掃委託	103			
委託料	機械警備委託	257	委託料	機械警備委託	141			
使用料及び賃借料	パソコンリース料	431	使用料及び賃借料	消火器リース料	4			
			補償補填及び賠償金	システムリースの解約費	421			

事業の 成 果	手段に 対する指標 (活動指標)	指標	リユースショップ来館者数				単位	人
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		16,000	H30	目標	16,000	16,000	16,000	
				実績	14,277	14,414	9,445	
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	目標							
	実績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	来館者数を指標とすることにより、区民のごみ減量及び3Rに対する意識を把握することができる。目標値については、日平均65人を基準として閉館日数(約250日)を掛けて算定。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指標	売り上げ点数				単位	点
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1	
21,000		H30	目標	21,000	21,000	21,000		
			実績	20,894	22,944	19,934		
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目標								
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
リユースの実践として把握ができる								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
廃止を検討	<p>【令和元年度】 本施設の管理運営をする「すみだリサイクルの会」が会員数の減少等により、平成30年度をもって解散したため、施設は閉館済み。令和元年度は施設の維持管理を行った。</p> <p>【令和2年度】 江東橋にあった「すみだリサイクルセンター」が、「旧リサイクル活動センター」に移転開設する。</p>

課題・問題点